

## 高松立太田南小学校 体力向上プラン

人間性豊かで 心身ともに健康で実践力のある たくましい子どもの育成  
めざす児童像—たくましく考える子 たくましく判断する子 たくましく行動する子—

### 【本校の課題】

- スポーツや運動遊びの経験が少ない児童が多い、遊具を使った遊びを行う児童に偏りがあるなど、運動に親しむ習慣が二極化傾向にある。
- 児童数に対して運動できるスペースが少ないこと、新型コロナウイルス感染症予防対策のため昼休みの運動場使用に制限を設けたため、外で運動する時間が減少している。

### 【現状】

休み時間等には元気よく運動場で遊んでいる姿が見られるが、学年や人数が固定化されている。昼休みには、全体遊びをしているクラスとそうでないクラスがあるため、運動経験に差が生じている。また、多くの子どもたちが、ボールを使った遊びや鬼遊びが中心で、遊具などで遊ぶ姿は比較的少ない。

—昨年度より一校一運動として取り組んできた縄跳びの効果もあり、年間を通して縄跳びで遊んでいる児童の数は増えてきている。一方で、低学年に比べて高学年の取り組み方が比較的消極的であるという課題もある。

### 【取組み】

〈運動好きの児童を育てる環境整備〉

苦手な児童やボールに恐怖心がある児童でも楽しめるように、ソフトドッジボールを購入する等体育備品を充実させ、児童の運動に対する抵抗感を低くし、様々な運動に親しめるようにする。

〈縄跳び・長縄に親しむ環境づくり〉

縄跳びに親しむことができるように、環境を整える。例えば、ジャンピングボードの常時設置を含めたスペースの確保、体育委員会による縄跳びの啓発等により、児童が意欲的に活動できるようにする。

〈体育の授業の充実〉

体育主任や体育部を中心に、普段の体育の授業を充実するために、児童の技能保障の仕方や場の設定などの工夫を積極的に発信する。また、「できる」「わかる」の保障を教師に伝えていく。そして、系統ある体育授業を目指す。

### 【目標】

- 運動やスポーツに親しむ経験ができる場を設けて、今年度新たに自己の運動に関するアンケートを実施し、令和4年度末までに運動が楽しいと答える児童を90%以上にする。
- 全ての取組で児童の情意そのものに焦点を当てることで、運動好きを増やすことから新体力テストの記録向上へとつなげる。令和4年度末までに、半分以上の項目で全国平均以上を目指す。
- なかまとともに運動する機会を増やすことで、スポーツライフに向けた対人性と社会性を養う。